

別紙

I. 事業評価総括表

(単位:円)

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は間接 交付金事業者名	交付金事業に要し た経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	桐生市黒保根社会体育館改修工事	桐生市	3,002,400	2,400,000	

(備考)事業が二つ以上の場合は必要に応じ欄を設けること。

II. 事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称		
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	桐生市黒保根社会体育館改修工事		
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		桐生市		
交付金事業実施場所		桐生市黒保根町水沼182番地3		
交付金事業の概要		障害者用トイレ設置・玄関スロープ設置		
総事業費	3,002,400	交付金充当額	2,400,000	
		うち文部科学省分 うち経済産業省分	2,400,000	
交付金事業の成果目標	黒保根社会体育館については、昭和55年に完成し住民の健康増進施設として、各種スポーツクラブの練習及びコミュニティの推進等に利用されています。最近では利用者の高齢化や障がい者の利用も増えている反面、施設の利用面での不便性が感じられ、バリアフリー化の要望が増えてきています。利用者の安全面や更なる利用促進のため、早期に実施したいと考えています。黒保根社会体育館の利用実績が増加しているなかで、今後も末永く活用していくために施設改修が必要不可欠であり、これにより市民の更なる健康増進に役立てる。			
交付金事業の成果指標	市民の健康増進を図るため、施設のバリアフリー化を行い、前年度同水準の体育館利用者数及び体育館利用団体数を維持する。			
交付金事業の成果及び評価	交付金の活用により、玄関スロープ設置及び障害者用トイレを設置し、施設をバリアフリー化した。平成29年1月の体育館利用者は29団体192名と平成28年1月の26団体265名と比べて利用団体は微増(利用者数については、前年は冬休み中に集中利用した団体の人数が多かったため今年度は減少となっている)だが、使いやすくなったと利用者から好評で、1月末時点で、2月の予約団体が25団体、3月の予約団体が27団体と、前年の利用実績である2月22団体、3月25団体を既に超えている状況である。特に障害者スポーツであるボッチャクラブについては、利用数が倍増しており、本交付金の活用により施設をバリアフリー化したことが利用増加となり、市民の健康増進に寄与していると評価できる。利用者の評判はよく、今後、ロコミやホームページでの利用案内等により更なる利用者の増加が見込まれる。			
交付金事業の契約の概要				
契約の目的		契約の方法等	契約の相手方	契約金額
障害者用トイレ設置及び玄関スロープ設置工事		指名競争入札	山柴建設	2,052,000
障害者用トイレ設置設備工事		指名競争入札	(株)タカダトータルシステム	950,400
		計		3,002,400
成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無		無	交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度	該当なし

(備考) (1) 事業ごとに作成すること。

(2) 番号の欄は、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。

(3) 交付金事業の成果目標の欄は、発電用施設周辺地域整備法第1条(目的)を踏まえて具体的に記載すること。

(4) 交付金事業の成果指標の欄は、成果目標を踏まえて定量的な指標を記載すること。

(5) 交付金事業の成果及び評価の欄は、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数値を用いて記載すること。

(6) 交付金事業の契約の概要の欄は、契約件数が二つ以上の場合には必要に応じ欄を設けること。

(7) 成果及び評価に係る第三者機関等を活用の有無の欄については、第三者機関等を活用した場合にあっては、その名称及